

I 学校経営上の基本課題

1 地域の特徴

- 本校は鶴岡市の南東部に位置する斎地区のほぼ中央にあり、勝福寺・我老林・斎藤川原・伊勢横内・八ツ興屋・遠賀原・外内島の7地区を学区としている。
- 地域産業は米作・畑作・ハウス栽培等を中心とする農業が中心であるが、農業を専業とする保護者は少なく、多くが勤めに出ている。夫婦共働きの家庭も多いため児童の学童利用率が極めて高い。
- 農業地帯では3世代同居も多いが、市街地に近い地区ほど核家族が多い。特に斎藤川原・外内島地区では新興住宅地化が進み児童数が増えている一方、旧来の地区では児童数の減少傾向が進み、地区間の児童数格差が広がっている。
- 市街地周辺の都市化傾向により豊かな自然は遠ざかりつつある。また、農免道路開通に伴い、学校周辺道路の交通量が増大し、登下校における交通安全には十分配慮しなければならない。

2 教育課題のおさえ

【つながる力】

小さいときから群れて遊ぶ経験が不足し、ゲーム機が氾濫する中で育ってきた子どもたちは、人と関わる力や一緒に歩もうとする姿勢・意志が弱まってきている。集団や身近な人間関係の中で自分を表現したり自他の良さや違いを認め合ったりしながら、人間関係の中で社会性を育むことが重要である。

【生きる力】

少子化社会の中で、全てにおいて恵まれて育ってきている子どもが多い。また、人間関係の希薄さに加え、実体験や心象体験も少ない中で成長している子どもたちは、具体的な目標を持ち自分を高めようとする意志、共に力を出し合って創り出そうとする意志が弱くなってきている。教育活動全般を通して、子どもに夢を持たせ前向きに生きようとする力を醸成する指導が重要である。また、変化する時代を主体的に生きぬくためのたくましさや適応力、自尊感情等を育てていかなければならない。

【学ぶ力】

学びに対する興味関心・根気強さ・学ぶ意欲の減退も今日的な課題である。また、コミュニケーション力の不足も学びの深まりや広がりやを阻害している。学ぶことの動機付けを大切に、共感的な人間関係の中で主体的な学びと学び合いによる深まりのある授業を仕組み、個に応じた指導の充実によって学ぶ意味・楽しさを実感させていくことがきわめて重要である。同時に、変化する社会を生きぬく力として、学んだことを活用・応用する力も身につけさせていかなければならない。

【本校児童のよさと伸ばしたい力】

- <良さ> ○素直で真面目。心の安定 ○与えられた課題に真面目に取り組む
○心優しく思いやりのある子ども ○他と関わって学ぶ力
○基礎・基本の定着 ○順応性
- <伸ばしたい力>
▲向上心 ▲他との関わりの中で生まれる自己有用感 ▲読解力・活用力・表現力
▲自己管理の力・規範意識（生活リズム・他者との折り合い・メディアコントロール）
▲心と言葉を育み、学び深める読書 ▲家庭学習の更なる質の向上

II 経営方針

- 1 教育活動は人格形成をめざす活動であるという認識に立ち、21世紀を生きる子どもたちに「生きる力」と「確かな学力」を育み、学校教育目標、重点目標の実現に全力であたる。
- 2 集団生活を通じた指導と個のニーズに応じた指導の両輪の中で、一人一人の子どもの能力・特性を生かし、伸ばし、「子どもの成長と幸せ」のために最大限の努力を払う。
- 3 めざす子ども像を児童・教職員で共有し、「元気」「本気」「笑顔」～学校に関わるすべての人の元気・本気・笑顔があふれる学校～をキーワードに、活力ある学校づくりをめざす。
- 4 保護者や地域に信頼され、心から応援してもらえる「安全で・安定した学校づくり」に全力をあげる。

Ⅲ 経営の重点と具体策

<学校キーワード>

◎「元気」「本気」「笑顔」～学校に関わる全ての人の元気・本気・笑顔があふれる学校～

- (1) 「子どもの成長と幸せ」を最優先に、児童一人一人に対する共感的理解、居場所や活躍の場づくり、自己有用感の涵養に努める。
- (2) 目標設定や振り返りの場を大切に、児童が成就感・達成感を実感できる主体的活動を仕組むと共に、指導者も児童の変容を確認しながら、常に改善志向の教育活動を展開していく。
- (3) 子どもへの深い愛情に裏打ちされた実践を行い、全職員で全児童を育てる。
- (4) 保護者・地域と共に「目指す子ども像」を確かめ合い、保護者・地域に信頼される元気な学校づくりを推進する。

特色ある教育活動の展開

- ・ 全職員で目標・情報・成果を共有する協働性・同僚性のある職場づくり
- ・ ねらいを明確にし、PDCAサイクルを大切に教育課程
- ・ 評価2期制のメリットを活かした学びの連続性を大事にした学習活動の充実
- ・ 子どもの心に寄り添った教育相談活動の日常化と、教育相談組織・機能の充実
- ・ 自他の生き方を尊重する「いのちの教育」「キャリア教育」の推進
- ・ 学校研究を核にした担任力の育成（学習指導力・生徒指導力・特別支援教育力）・OJTの充実
- ・ 教職員・児童・保護者・地域関係者による学校評価の実施と開示・改善
- ・ 学校運営協議会を導入。（学校・保護者・地域が知恵を出し合い協働しながら子ども達を育む、地域と共にある学校づくり）

1 「他者の思いを尊重し、協働してより良い生活を創る子ども」の育成 **（こころ）**

- (1) 目標を持ち、粘り強く努力する子どもを育成する。**本気**
- (2) かかわりの中で、思いやりのある子どもを育成する。**笑顔**
- (3) 自分の思いを持ち、自主的・自発的に活動できる子どもを育成する。**元気**
- (4) 感じて、気づいて、考えて、行動できる子どもを育成する。**本気**

豊かな心の育成

- ・ 心を掘り起こし、実践力を育む学級経営・道徳教育の充実
- ・ 子ども参加型のいじめを許さない学校づくり（早期発見 早期対応 組織的対応）
- ・ 福祉教育や環境教育を通しての実践力の育成
- ・ 「自分達の学校は自分達でつくる」自治的で自浄作用のある児童会活動の推進
- ・ 縦割り活動（清掃や行事等）や他校との交流による、関わる力、思いやる心、自己有用感の育成
- ・ 家庭や地域（いつき見守り隊等）と連携したあいさつ運動の推進と、返事や言葉遣い等社会に通じるルールやマナーの育成

2 「楽しさ・喜びを感じながら主体的に学ぶ子ども」の育成 **あたま**

- (1) わかる・できる喜びを実感し、楽しく学ぶ、好奇心に溢れた子どもを育成する。 **笑顔**
- (2) 学び方を身につけ、見通しを持って学習できる子どもを育成する。 **元気**
- (3) 考えを伝え、思いを受け止め、学びを深めることができる子どもを育成する。 **本気**
- (4) 一人でも深く学べる、自立した学び手としての子どもを育成する。 **本気**

確かな学びの育成

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす「い・つ・きの学び」を意識した授業改善
- ・ 互いに認め合い、高め合える学習場面や学習形態の工夫
- ・ 基礎基本の定着と活用力を高める家庭学習の量と質の向上
- ・ 学びをつなぐ教科横断的な視点でのカリキュラムマネジメント
- ・ 総合的な学習の見直し（子どもと教師で創る総合的な学習）
- ・ 一人一端末の有効活用と情報モラルと情報リテラシーの育成
- ・ 図書館活用教育を推進し、読書力（学びを深める読書）の育成
- ・ 意図的で、日常的なOJTによる個々の授業力の向上

3 「運動に親しみ、自ら健康・安全を管理できる子ども」の育成 **からだ**

- (1) 達成感・成就感を味わい、楽しく運動をする子どもの育成 **笑顔**
- (2) めあてをもって、体をきたえる子どもの育成 **本気**
- (3) 自分の生活を振り返り、主体的に改善に取り組む子どもの育成 **元気**
- (4) 危険を予測し、安全に生活できる子どもの育成 **笑顔**

健やかな体の育成

- ・ 運動特性に触れさせる楽しい教科体育の指導
- ・ 健康診断の結果をもとにした保健指導・保健学習の実施
- ・ スポーツテストの結果をもとにした継続的な運動への取り組み
- ・ めあてをもって取り組む「いつきっ子運動」（走・柔軟運動・なわとび）の充実
- ・ 主体的に取り組む生活習慣・リズム作りのための家庭との連携
（心身の健康の安定のために 早寝・早起き・朝ごはん セーブメディアへの取り組み）
- ・ 命と体を守るための交通安全・生活安全指導の充実
- ・ 危機回避能力の育成をめざした避難訓練や不審者対応訓練の実施

本気・元気・笑顔がすべての活動に・・・

